

今年は春の到来が遅く、例年ですと校内の桜の木々では花がそろそろ開こうとしていますが、まだつぼみが膨らみかけたところです。筑後川の対岸に位置する梅林寺では今梅の花が咲き誇り高貴な香りを放っています。今週に入って少し暖かさが感じられるようになり、これから日に日に春の到来が感じられていくことでしょう。

引き締まった寒さが少し感じられる爽やかな早春のこの佳き日に、ご来賓のご臨席を仰いで、本日ここに令和6年度の久留米工業高等専門学校の卒業式ならびに同校専攻科修了式を挙行できますことを、卒業生・修了生はもとより本校教職員一同まことに光栄に存じます。お忙しい中にも関わらずご参列をいただきました、ご来賓の皆様には厚く御礼を申し上げます。

本科卒業生189名ならびに専攻科修了生38名の皆さん、それぞれご卒業・ご修了おめでとうございます。皆さんは、本校が掲げる「自立の精神と創造性に富み、広い視野と豊かな心を兼ね備えた、社会に貢献できる技術者の育成」という理念に基づいた教育課程を終えられてこの日を迎えました。それぞれ15歳からの5年と7年、中には本校が大好きで少し長く在籍した学生さんもありますが、青年から大人に成長していく人生の重要な時期を、ここ小森野のキャンパスで級友らや先輩後輩と喜怒哀楽を共感しながら、勉学に励み様々な事に挑んでこの日を迎えました。これまでに重ねてこられた研鑽と努力に深く敬意を表します。同時に卒業生・修了生の学修と成長を支えてこられた保護者の皆様には、高いところからではありますが、こころより深く感謝を申し上げます。

本科卒業生が本校に入学した今から5年前の2020年を思い出すと、前年の11月に中国・武漢市で初めて確認された、新型コロナウイルスSARS-CoV-2を病原体として呼吸器疾患などが発症する感染症COVID-19が、瞬く間に我が国や全世界に広がってきました。ここにいる本科卒業生の皆さんは2020年の4月に新たな学校生活に夢や希望をもって本校に入学したにもかかわらず、5月のゴールデンウィーク明けごろまで全く授業が行われずに自宅待機が続き、授業が開始されても登校することなく長くオンラインでの受講を余儀なくされました。そのときすでに在校生だった専攻科修了生の皆さんも、授業だけでなく課外活動や学校行事も中止となり、学校生活がその後どうなるのか強い不安を抱いたことでしょう。クラスメイトや先生方と直接に対面して交流ができず、強い閉塞感で精神的にも大きな負担になったことと思います。その後少しずつ対面での授業が戻ってきましたが、感染の拡大や収束が幾度となく繰り返されて、3年以上の長きにわたって頻繁に授業形態が変わるとともに、感染拡大抑止のために課外活動や学校行事も思うように実施できませんでした。同級生の多くが学んでいる3年間の高等学校とは違って、次ぎに進む大学への入学試験もなく、伸び伸びとして青春を思う存分謳歌できる高専での学生生活にパンデミックが襲ってきてしまい、高専祭をはじめとする様々な学生行事やクラブ活動、インターンシップなどの校外活動も十分にできずに、卒業生、修了生の皆さんは残念な思いが少しよぎっているかもしれません。

今ではパンデミックによる行動制限は無くなりましたが、その影響がまだ根強く残っているかもしれません。私が懸念していることは、みなさんの心の中です。みなさんのように成長が著しい時期に3年以上も様々な行動規制がなされたことによって、みなさんが知らず知らずに身につけてしまった行動様式です。感染予防を理由にマスクをつけ続けて素顔がわか

らないために、新しい出会いがあってもその後の関係が希薄になっていないでしょうか。家族や周りの親しい友達と会話することも遠慮や躊躇しがちな傾向が残っていないでしょうか。直接話さなくても、今は SNS があるので、物事を伝えるだけだったらそれで十分かもしれません。でも直接素顔を見ながら話すのとそうでないのとは、自身の気持ちや物事の伝わり方、正確度が違います。

黙って一人でいると何事も起こらないし他人への気遣いも無用ですから、心理的には楽でしょう。しかし、人間は楽に慣れてしまうと、そこからは中々抜け出すことはできません。一旦、自動車やスマホなどの便利な道具に使い慣れてしまうと、それを手放すことができなくなるのと同じです。

そのような静かで楽な状態は平穏ですが幸せであるかといえば、必ずしもそうではありません。楽であることと幸せであることは全く別物です。幸せは、たとえば自ら何かに取り組んで、その成果が少しでも見えた時や、心の琴線に触れる出来事、素晴らしい芸術に接した時に「感動」を覚えた時に感じるすることができます。一方、楽な状態は現状に「満足」しているとも言えます。すなわち、楽かどうかは止まっている静的な「状態」であるのに対して、幸せかどうかは動きがある「活動」によってもたらせます。「感動」はその後に「前進と成長」をもたらします。一方、「満足」して現状を維持しようと甘んじていると、必ず「後退」につながります。

皆さんの前にはこれから前途洋々とした未来があります。日本では人生 100 年と言われていきます。これからも前向きに人生を楽しむこと、拓いて行くことを忘れずに歩んでください。「感動」をこれからも追い求めてください。

高等専門学校は 1962 年にわが国独自の高等教育制度として設立されて、第 3 期に設立された本校は今年度が高専として 60 周年でした。高専の創設 60 周年では記念のキャッチフレーズが作られました。それは「たゆまぬ挑戦、飛躍の高専！」です。このキャッチフレーズは高専生ならびに高専で勉強した卒業生の全員に当てはまります。すなわち「たゆまぬ挑戦、飛躍の久留米高専生！」です。60 周年を迎えて高専の存在と意義が改めて見直されており、高専には多くの方々から強い期待が寄せられています。それはすなわち、高専の卒業生である皆さん全員に熱い期待が寄せられていることに他なりません。

20 世紀において人類はそれまでに得てきた科学的知見を基に大きく文明を発達させて、豊かな近代社会を創り上げました。しかし、卒業生・修了生の皆さんが生まれた今世紀に入ると、文明社会の営みによる地球環境への影響や増え続けるエネルギー消費など、負の側面があらわになってきました。さらに、最近では情報化社会の急速な発達によって、人類がこれまで長年かけて構築してきた様々な社会システムや生活様式も大きく変わろうとしています。最近の AI は人類の知性が及ばないところを補うまでに発達してきています。今後さらに発達することは間違いありません。加えて、人口増加と地球規模の人的交流の拡大によって、COVID-19 のような新たなパンデミックの危険性が益々高くなっており、人類社会の発展に大きな影を落としかねません。

これから皆さんが活躍する社会の今後の発展・展開は、科学技術だけでなく様々な社会情勢の影響が複雑に加わって予測が付きません。高度な文明社会を支えて新たな展開を切り開

く工学の内容や位置づけについても、今後の展開は全く予測不能とされています。

すなわち、工学そのものの目的や要素技術の使い道は、時とともに大きく変わっていく可能性が十分にあります。しかもその変化の速度がますます速くなってきています。目的志向のその目的に縛られた価値観はもはやこれからの時代に合わなくなっており、新たな価値の創造が求められています。これは皆さんの前に新たなチャンスが好機として待っているということです。単なる技術はすぐに真似されて追いつかれてしまいます。あたらしさに挑戦することが専門家に求められ、それが皆さんの幸せにつながるということでしょう。工学は「人類の幸せを創造する科学」です。皆さんの力で新たな幸せを自分だけでなく社会全体に創造してください。

高専では工学の理論と実践の両方をバランスした専門教育に加えて、実験・実習・コンテストを多用した実務教育に注力しています。高専卒業生の皆さんは身につけた知識や技術を、目の前にある課題に実践応用する経験を少なからず持っています。そのことはこれからの新たな未知の課題と対峙した時や新たな価値を生み出すのに大きな力になるでしょう。

先日3月4日の日本経済新聞でも高専卒業生への社会からの大きな期待が紙面一面の記事で取り上げられていました。皆さんは高専の卒業生・修了生であることに自信と誇りをもって、いい意味のプライドとして前向きに意識してこれから存分に活躍してください。

私は、大人とは自分の使命、すなわち社会人として他人との関係の中でやるべきことと、自分の好きなことが一致している人が大人であると常々考えています。これまでは自分がしたいことを探さないで周りから良く言われてきたでしょうが、これからはしたいこと、好きなことではなく、自分がしなくてはならないこと、使命を探してはっきりと意識し、それを自分の好きなことにして行くことが求められます。そのためには、くれぐれも健康には留意して、新しいことを貪欲に吸収して、自らの使命の上に自分の夢を描いて、その実現に努力と挑戦を重ねてください。それが人として幸せをもたらす人生です。

私が本校に校長として着任して3年が経ちました。この間に、それまであまり顧みられていなかった本校の校歌に皆さんが慣れ親しんでもらうように、機会があるごとに皆さんと歌ってきました。もちろん今日もこの後に用意されています。

皆さんの本校での5年あるいは7年は、これからの人生において大きな刻印となっています。校歌は久留米高専生と卒業生全員の時代を越えた共通の合言葉です。一人で歌うものではありません。今までは常に級友が周りに居ましたから、校歌を歌う必要はありませんでしたが、これからは久しぶりに再会した同級生だけでなく、初めて会う先輩や後輩とも校歌と一緒に歌うことによってすぐに気心が知れるはずです。そのことは皆さんの人生を豊かにしてくれるでしょう。

実は私も皆さんと同じように今月末で本校を卒業します。卒業生・修了生の皆さんと比べて短い期間であつという間でしたが、本校の素晴らしい学生さんや教職員、さまざまな関係者の方々とお会いできて、充実した楽しい3年間でした。皆さんありがとう。

卒業後に皆さんと再会した時には一緒に校歌を歌って「久留米高専生」であることの誇りを感じ合いましょう。

工学の世界に国境はありません。多かれ少なかれ世界と繋がっています。世界に広がった

社会の中で皆さんが活躍されていかれますよう、心より願っております。皆さんのご健勝をお祈りいたします。

以上をもって令和6年度の本校卒業式・修了式における校長告示といたします。

令和7年3月14日

独立行政法人国立高等専門学校機構

久留米工業高等専門学校長

松 村 晶